

おいでん・さんそんSHOW

4月号

2021.04.01発行



雨のため森には入れなかったが、古民家に移動し丸太を切る体験をした

交流と学習を通じて、都市と山村の住民に科学的な森づくりの手法と楽しさを伝える取組『森の健康診断』(以下、森健)。2000年の東海豪雨で山崩れが相次いだのをきっかけに、人工林の状態を明らかにしようと、2005年からボランティア団体を中心に豊田市で始められ、幅広い市民が森の大切さや現状を、正しく理解する活動として全国に広がっています。これは、豊田市が誇る「とよた森林学校」の大きな成果です。

恵みの雨の中で開催

3月21日(日)、森の健康診断出前隊が『子どもの森の健康診断』くじいじとばあばと森ドックin惣田の森2021』を旭地区の惣田町で開催しました。

この日はあいにくの荒天で実際に山に入ることは叶いませんでしたが、惣田にある築150年の古民家を会場に、大人向け・子ども向けのプログラムを織り交ぜつつの開催となりました。



集合場所の津島神社農村舞台

特集 子どもの森の健康診断くじいじとばあばと森ドックin惣田の森の大切さボランティアに学ぶ

旭 あさひ

旭あさひが、事務局の篠井美枝子さんがスケジュールと感染予防対策の徹底について案内しました。次に地域代表で渡辺裕さんが豊田市の森と関わりが深い矢作川水系の地理と歴史について触れ、「雨が降らないと川は流れない。川は田を潤し、工業用水や生活用水となり、みんなが恩恵を受けている。今日の雨もありがたいと思ってもうえれば」と挨拶しました。

vol.76

おいでん・さんそんプラン

2021年3月、豊田市は、山村地域の振興及び都市との共生に関する基本計画「おいでん・さんそんプラン」を策定した。2040年の目指すべき将来像を「自立」と「つながり」で支え合い豊かさ創造する山村」と定め、具体的な状態指標や向こう5年間の取組を明確化し、地域、市民活動団体、企業等の多様な主体との

センター長のミライのフツに 向かって！

センター長 鈴木辰吉

共働による持続可能な山村地域づくりを目指す新たな行政計画である。

山村の価値を都市と分かち合う理念に貫かれた計画には、注目すべき考え方や方針が示されている。これまでの、定住対策による人口維持、観光・交流による経済循環、生業づくりを踏襲しつつも、一定の人口減少を避けられないものとして世代間バランスや関係人口に持続化の糸口を見出そうとして

いることやコロナ禍もたらした山村の価値の捉えなおし、次代の子ども育成に視点を当てていることだ。重点取組として「空き家活用」、「関係人口創出」、「多様な働き方」に加え、「高等学校の魅力化」を掲げていることも注目される。そしてこれらの推進体制にセンターが、しっかり位置付けられていることは言うまでもない。

水ビジネスを狙った国外資本による山林買収など、かねてから

あった課題に加え、低密度地域での住宅開発投機や個人キャンプを意図した山林買収など、コロナ禍が持続可能な山村地域づくりに新たな課題をもたらしている。

センターは、市直営の4年間民間営化からの4年間を経「おいでん・さんそんプラン」を道標とする新たなフェーズを迎えた。住民の自治を確かなものとするため「つながる力」で未来を変える「ミッション」の実現に邁進したい。

お知らせ

豊田市公式 YouTube チャンネルで動画配信中！

家主さんの悩みを解決！空き家活用のススメ



空き家を持っているけれど、色々な悩みがあって行動が起これない。そんな家主さんの悩みにズバットお答えするYouTube番組です。

- 番組長さ 毎回5分前後
- 司会 さとそのゆき 里園侑希氏(ラジオラビートパーソナリティ)

- 公開済の番組名とQRコード
- #1 こんな古い家を借りる人って本当にいるの? やまうちゆりえ ゲスト 地域支援課山内優里恵氏
- #2 家に不具合があり、改修してから貸したいけれどお金がありません さとそのゆき ゲスト 地域支援課山内優里恵氏
- #3 家財道具が残っているし、片付ける時間もないので貸せません さとそのゆき ゲスト 地域支援課山内優里恵氏
- #4 仏壇があるので、貸すことができません あんどうゆきお ゲスト 敷島自治区 安藤 征夫氏
- 毎週金曜日に新しい番組を更新しています。ぜひチェックしてください。

いいかも！豊田でいなか暮らし



都市部に暮らす方向けに、豊田市の山村地域に移住した5組の方の古民家暮らしを紹介しています。自然に寄り添った暮らしがしたいから。子育てをしやすい環境だから。理由は様々ですが、それぞれが自己実現するためにここ豊田市で根を張って生活している様子をお伝えしています。

- 番組長さ 3分54秒
- QRコード

豊田市の山村との交流で企業価値を高めるマッチング支援



センターがサポートする、企業と山村のマッチングPR動画です。豊田市の豊富な山村資源を活用することで、企業価値を高め、新しい魅力を創造する取組についてご紹介。名古屋市に本社を構え、愛知県内に「カレーハウスCoCo壱番屋」を15店舗フランチャイズ展開

- 番組長さ 8分20秒
- QRコード



電柱を木に見立てて計測する方法を学ぶ

す。鋸を使って丸太を切る。切った木を光に透かしてみる。匂いを嗅いでみる。切り出した丸太に受け口を切ってから追い口を切り、ロープをかけて伐倒体験もしました。大人と一緒に体験したゆいちゃん(小5)は「まっすぐ切るの難しい」と汗ばみながら何度も挑戦していました。

今回の企画は、敷島小学校の総合的学習の時間に森の健康診断出前隊から学んだ児童が夏休みにおいちゃん(小5)と森健をしたというエピソードをもとに発案されたそうです。事務局の篠井さんは「子どものころ森で毎日遊んだり、森と暮らしがつな

ランティアを引き出す体験をした。方。今はその知恵や経験を次の世代につなぐラストチャンス。是非、祖父母世代とお孫さん世代とが森を介して話をしてみてください」と、国土の70%が森林の日本の森を守っていく森健の活動に対する想いを語りました。

草花や木に触れる

その頃、子どもプログラムでは、裏庭で5種類ずつの草花を採取して形や手触りなどで分類してみたり、木に見立てた学生ボランティアを引き出す体験をした。

「皆さんはこの秘密基地の最初のお客さん。ゴールデンウィークには、モンゴルのゲルを立て、ジビエBQを企画するので、是非遊びに来て」と呼びかけました。地域代表の渡辺さんが「山の神様に千本の手と知恵とを授けられた檜が、里人の苦しみを救う」と伝わる千手檜の『惣田物語』を語りました。そのあとは実際に千手檜を見に山へ出掛けました。雨にかすむ樹齢400年とも450年ともいわれる檜は、荘厳な威容を誇り、参加者は樹皮を伝う雨水もなんのその、胸高囲5.5mにもなる巨木に抱きついて悠久

千手檜の物語



惣田町の千手檜



丸太を鋸で切る体験



の時を感じていました。またの再会を約束！ 恵みの雨の中での開催となった森健。参加者からは「鋸や伐倒体験など、やってみて楽しかった！」「惣田の皆さんが個性的で面白い方ばかりで、また秘密基地にお邪魔したい！」「森林ボランティア講座を受けてみたい！」などの感想が聞かれ、第二弾・第三弾を望む声の大きさに「次回は好天の森健で逢いましょう！」と約束して閉会しました。(松本真実)



笑顔の参加者と森の健康診断出前隊の皆さん(撮影の際、マスクを外していただきました)

その後、参加者(大人6人子ども5人)は農村舞台上上がり、日丸美彦さん指導で「森健体操」で準備運動をしました。「小さな苗木になってくよきつと伸びて！」風がゆられてゆらゆら強風に吹かれてぐるぐるんぐるん！体操のお兄さんのような日丸さんの軽快な掛け声に、最初はお母さんの後ろに隠れていた子ども達のボルテージは一気に急上昇していました。全員で津島神社へご挨拶と講座の安全祈願の参拝をし、会場

紙芝居で学ぶ

大人向けプログラムでは、紙芝居で人工林と自然林の差や「健康な森と不健康な森」についての知識、また、2000年の東海豪雨で旭地区の小渡小学校が浸水し幼稚園が流されるなど豊田市でも甚大な被害がでたことをきっかけに、森林ボランティアが中心となって研究者と共同で森健をはじめたことなどを学びました。

森健体操でスタンプ

座学の後には時折雨脚が激しくなる中、軒下から実際に森の斜面を眺めました。中根賢二さんは、放置してきた人工林が大きく育ちすぎて葉からの蒸散量が増えたために川の水量が減り、水田に水が来なくなってきたことなど、目で見た景色と集落の問題点をつなぐレクチャーをしました。

五感で感じる

「本に書いてあることを鵜呑みにしない。森に入ると、目で見て匂いを嗅いで、音を聞いて、五感で感じる。どうしてかな」と疑問に思う事が大事」と教えてくれました。

鋸で切ってみる

いよいよ実際に手を動かしてみ



紙芝居で森について学ぶ



森健体操で講座を受ける準備



森での安全対策